

南砺市立 2 病院の再編に関する住民説明会

令和8年5月8日／5月14日

はじめに

1 用語の定義について

(1) 医療提供体制に関する用語

① 地域医療

住民が身近な地域で、必要な医療を継続的に受けられる体制全体を指す考え方・概念

② 地域医療構想

2025年までの人口構成や地域の医療ニーズの質・量の変化を見据え、地域ごとに医療機関の機能分化・連携を進めることで、良質で適切な医療を効率的に提供する体制を確保するための計画。国がガイドラインを示し、都道府県が医療圏毎に策定します。

③ 新たな地域医療構想

高齢化がピークを迎える2040年に向けた新たな地域医療構想。2027年4月の開始に向け、2026年に国からガイドラインが示される予定。現行の地域医療構想が入院医療を主な対象としてきた一方、新たな構想では、在宅医療や介護との連携など医療提供体制全体を対象としています。

④ 医療機能

病院や診療所が担う医療の役割、機能（例：救急医療、入院医療、外来診療等）

1 用語の定義について

(2) 病床・医療の内容に関する用語

① 外来機能

入院を必要としない患者が、通院により診察、検査、投薬、経過観察などの医療を受けるための機能

② 入院機能

継続的な治療や看護が必要な患者を病院に入院させ、一定期間にわたり医療を提供するための機能。病状に応じ、高度急性期、急性期、回復期、慢性期等の区分に分かれます。

③ 手術機能

外科的な処置や手術を安全かつ適切に実施するための体制や能力。手術室、医師・看護師・麻酔科医などの専門人材、医療機器を含み、医療の高度化や専門性を支えます。

④ 救急機能

急病や事故などにより、緊急の医療を必要とする患者を24時間体制で受け入れ、迅速に診断・治療を行うための機能。地域の安全・安心を支える基盤となる医療機能であり、他の医療機関との連携も重要となります。

1 用語の定義について

(3) 再編・見直しに関する用語

① 医療再編

将来にわたって地域に必要な医療を維持するため、病院の役割や機能、運営のあり方を見直すこと

② 機能分化

各医療機関が得意な分野や役割を分担することで、限りある医療資源の最適化をはかり、効率的に医療を提供する考え方

③ 集約化

医療機能を一部の医療機関にまとめ、医療の質や安全性を高める考え方

④ 医療資源

地域で医療を提供するために必要となる人・施設・設備・財源などの要素の総称。医療資源は限りあるものであるため、地域の実情や将来の医療ニーズを踏まえ、適切に配置し、有効に活用することが重要となります。

1 用語の定義について

(4) その他の用語

① 南砺市立医療機関

本日の説明会においては、南砺市が設置・運営する市立 2 病院と市立 4 診療所を指す言葉として使用します。

② 二次医療圏

入院治療や救急医療など、ある程度専門的な医療を、地域の中でおおむね完結して提供することを目的として設定された医療区域。都道府県が、人口規模や交通事情、医療機関の配置などを踏まえて設定しており、複数の市町村で一つの医療圏を構成する場合もあります。本市は、砺波市、小矢部市と共に構成する「砺波医療圏」に属しています。

③ 医師の働き方改革

医師が過重労働により心身の健康を損なうことを防ぎ、持続可能な医療提供体制を確保するため、医師の時間外・休日労働の上限規制をはじめとする労働環境の改善を進める制度改革。2024年4月から本格的に実施されています。

1 今、なぜ再編が必要なのか

1 今、なぜ再編が必要なのか

(1) 南砺市立医療機関をとりまく課題への対応

(2) 二次医療圏（砺波医療圏）における課題への対応



- ・ **各課題の根本にあるのは「人口減少社会」**
- ・ 【地域医療】 = 【身近な場所で必要な医療を継続的に受けられる医療提供体制】 の維持が困難に
- ・ **人口減少社会に対応した医療提供体制の再構築が必要**

2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

南砺市立医療機関をとりまく「待ったなし」の課題

課題① 専門医・看護師等の医療従事者が不足していること

課題② 今後も続く高齢者救急等への対応が十分ではないこと

課題③ 病院事業の経営が急激に悪化していること

課題④ へき地医療の維持が難しくなってきていること



2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

課題① 専門医・看護師等の医療従事者が不足していること

①－1 医師の働き方改革による影響

日本病院会、全日本病院協会などで構成する四病院団体協議会が実施した「2025年度医師の働き方改革に関する状況調査」では、医師の働き方改革の全面施行からわずか1年で、医師の派遣中止や派遣回数の削減があったと回答した病院の割合が大きく増加したことが判明しました。

また、本調査に回答した全国の818の病院の半数以上が医師の働き方改革の推進に伴い、診療体制に影響が生じると回答しています。

医師の働き方改革

医師が過重労働により心身の健康を損なうことを防ぎ、持続可能な医療提供体制を確保するため、医師の時間外・休日労働の上限規制をはじめとする労働環境の改善を進める制度改革。2024年4月から本格的に実施されています。

2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

【図表1】医師の働き方改革による影響

○医師を派遣している病院の回答

- ・ 医師派遣の中止・削減を行う可能性はない …64.9%
- ・ 場合により医師派遣の中止、削減を検討する …12.3%
- ・ すでに医師派遣の中止・削減を行っている … 7.0%
- ・ その他 …15.8%

○医師の派遣を受けている病院の回答（複数選択可）

- ・ 派遣を中止すると連絡があった … 7.6%（前回調査から4ポイント増）
- ・ 派遣数・回数を削減すると連絡があった …13.7%（前回調査から8ポイント増）
- ・ 医師の報酬の引き上げ要請があった … 9.6%
- ・ 特に影響はない …69.5%
- ・ その他 … 4.9%

参考：四病院団体協議会「2025年度医師の働き方改革に関する状況調査」より
※前回調査は2024年に実施

2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

課題① 専門医・看護師等の医療従事者が不足していること

①－２ 看護師の不足（採用者数の減）

新型コロナウイルス感染症のパンデミック後から看護師の採用者数が急減

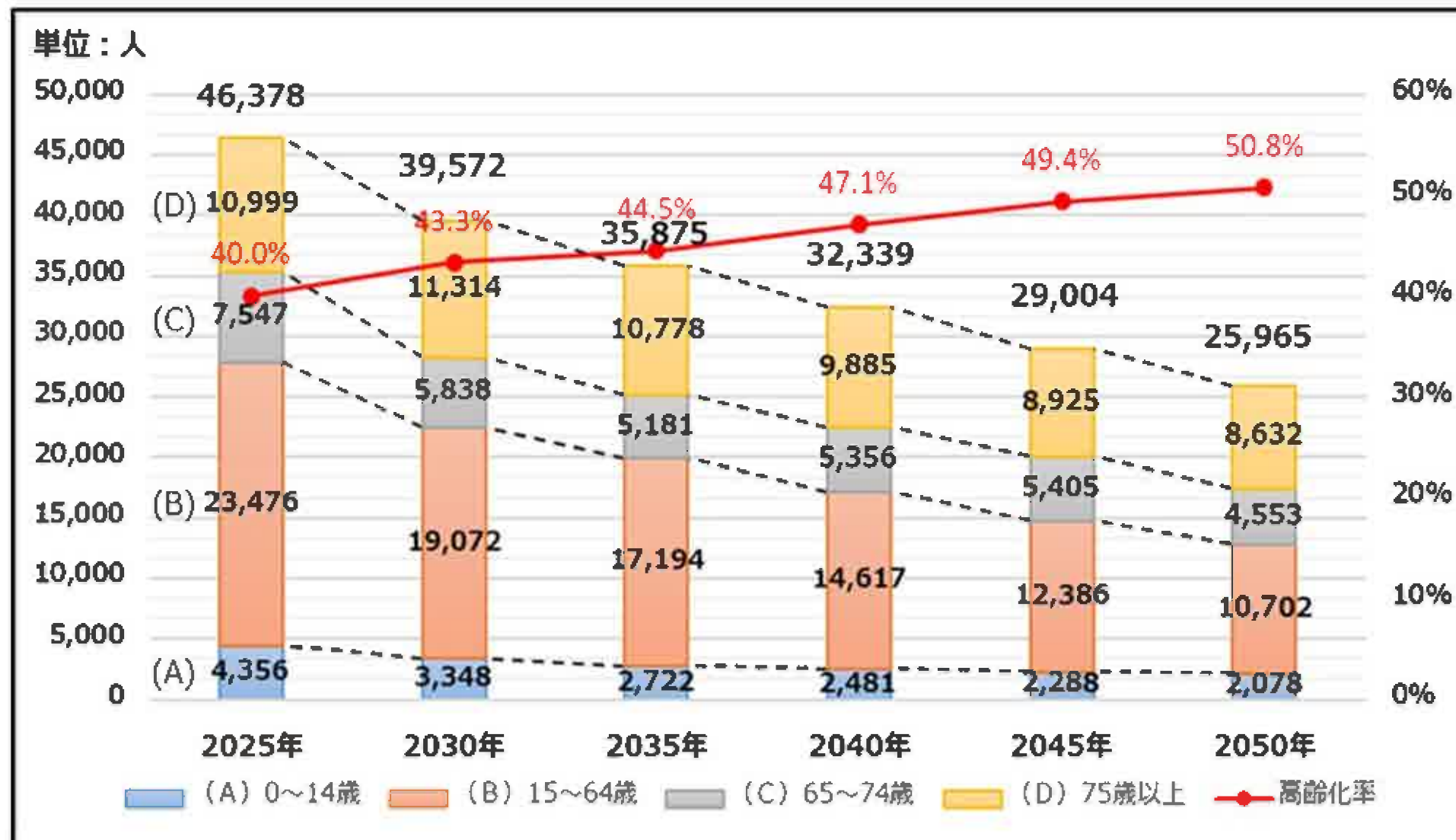
○市立２病院における看護師採用状況

単位：人

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	募集	採用	募集	採用	募集	採用	募集	採用	募集	採用	募集	採用
南砺市民病院	13	13	10	7	8	8	10	6	12	7	7	5
南砺中央病院	12	9	16	7	19	3	16	6	16	3	11	1

2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

○南砺市の将来人口推計



(参考) 国立社会保障・人口問題研究所 日本の市町村別将来推計人口（2023年度版）

2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

課題① 専門医・看護師等の医療従事者が不足していること

①－2 看護師の不足（夜間勤務への影響）

看護師の採用者数が減少する一方、育児短時間勤務制度などの拡充により、育児のための残業免除や深夜勤務の制限の対象拡大など、育児負担の軽減に配慮した働き方の義務化が進められており、特に夜間勤務において、市立2病院ともシフトの編成等に苦慮しています。

○市立2病院における夜間勤務状況（看護師）

	看護単位 (病棟数)	勤務間インターバルの確保		平均夜勤回数(1ヶ月当たり)		正循環勤務の導入
		現状	今後の計画	3交代	2交代	
南砺市民病院	4	○			3.8回	○
南砺中央病院	2	－	－	8.8回	3.8回	－

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

課題① 専門医・看護師等の医療従事者が不足していること

①－3 看護師の業務量の過多

市立2病院の全職員を対象とした業務効率化に関するアンケート結果

【回答された看護師（南砺市民病院34人、南砺中央病院29人）】

- ・南砺市民病院においては約85%
- ・南砺中央病院においては約70%



「職場内に業務過多がある」または
「どちらかと言えば業務過多がある」

2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

課題② 今後も続く高齢者救急等への対応が十分ではないこと

南砺市管内における救急搬送件数

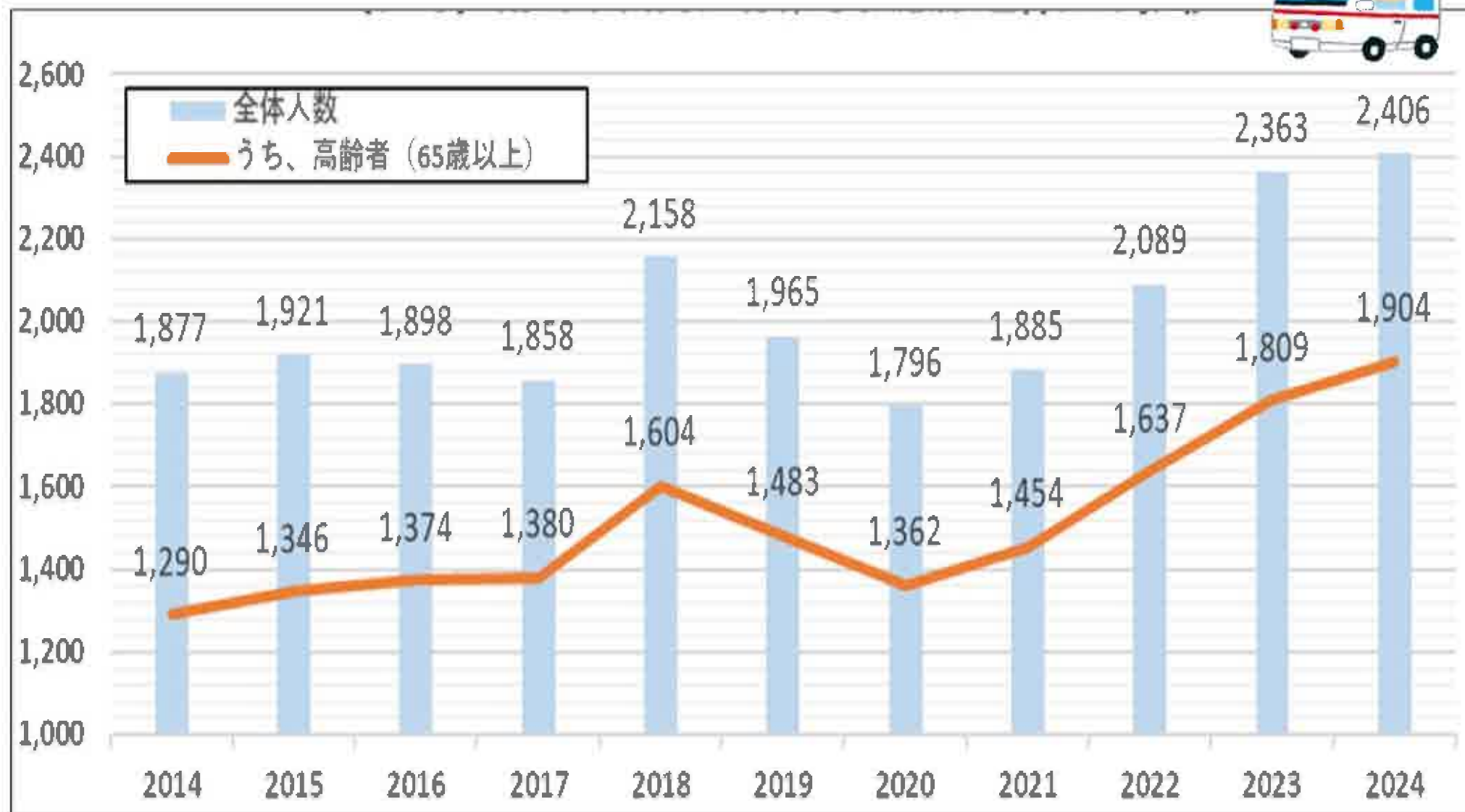


近年、右肩上がりに増加

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所による推計によれば、南砺市における75歳以上人口のピークは2030年前後
- ・ 引き続き、高齢者を中心とした救急搬送件数が高止まりすることが予想

2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

○南砺市管内における救急搬送件数の推移



2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

市立2病院における救急搬送受入状況

【2024年実績】

市立2病院に対する救急搬送件数



年間1,800件程度



このうち、1,713件に対応

全体の約5%に当たる90件程度は受入れができません

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

○市立2病院における救急搬送受入状況（2024年実績）

2024年実績 (1月~12月)	南砺市民病院			南砺中央病院		
	搬送件数			搬送件数		
		受入	受入困難		受入	受入困難
	1,060件	1,018件	42件	738件	695件	43件

（参考）砺波地域消防組合消防本部提供資料

【参考】2025年受入困難件数（1月~6月）

・南砺市民病院 … **47件** ・南砺中央病院 … **60件**

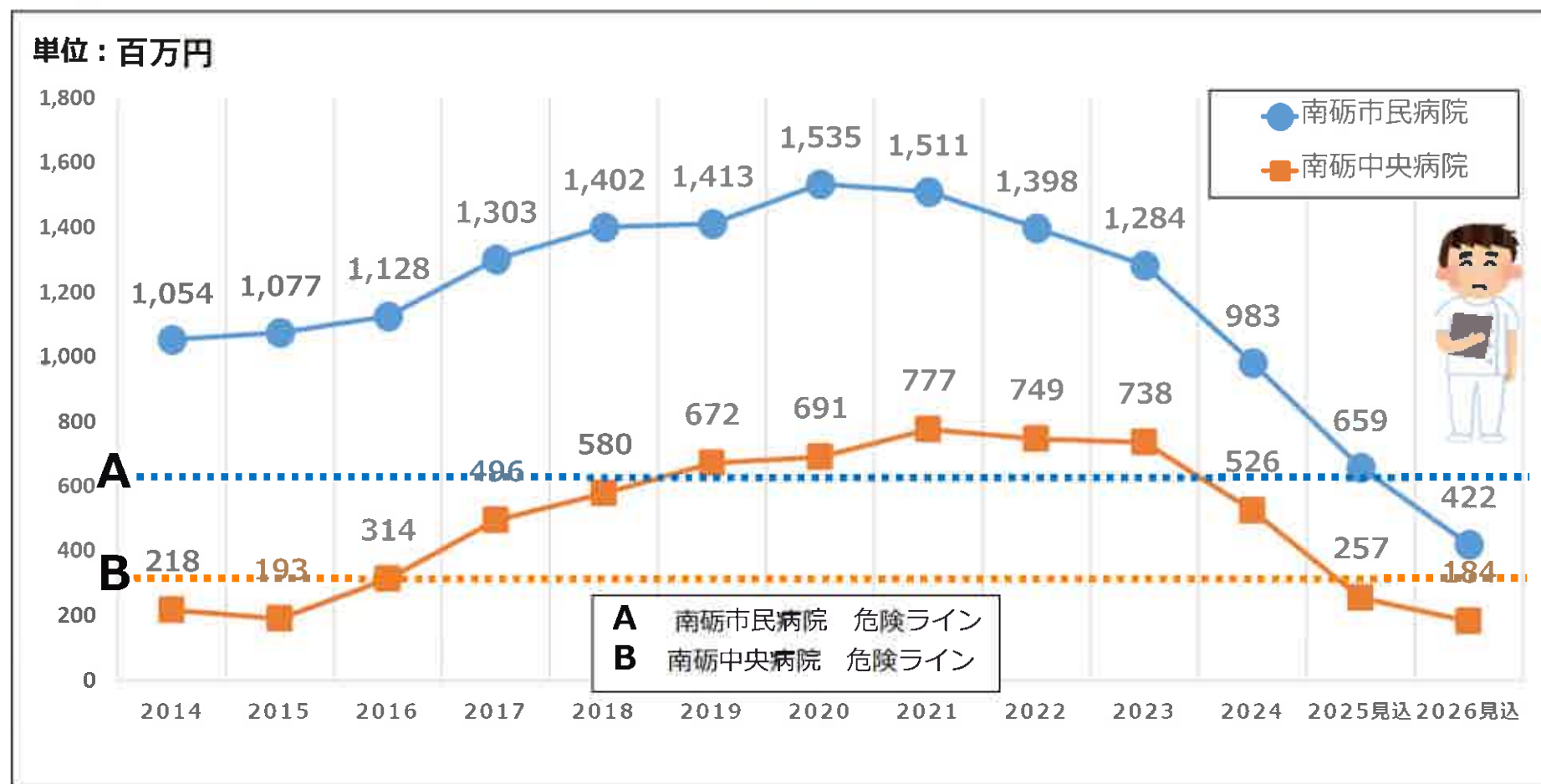
2025年上半期の受入困難件数が2024年の年間受入困難件数を上回る

2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

課題③ 病院事業の経営が急激に悪化していること

人事院勧告による職員給与費の増加と物価高騰により病院経営が急激に悪化

○南砺市立 2 病院における資金残高の推移



2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

一般会計からの財政支援について

○一般会計から病院事業への繰出金額【2025年度】

10億9,444万円

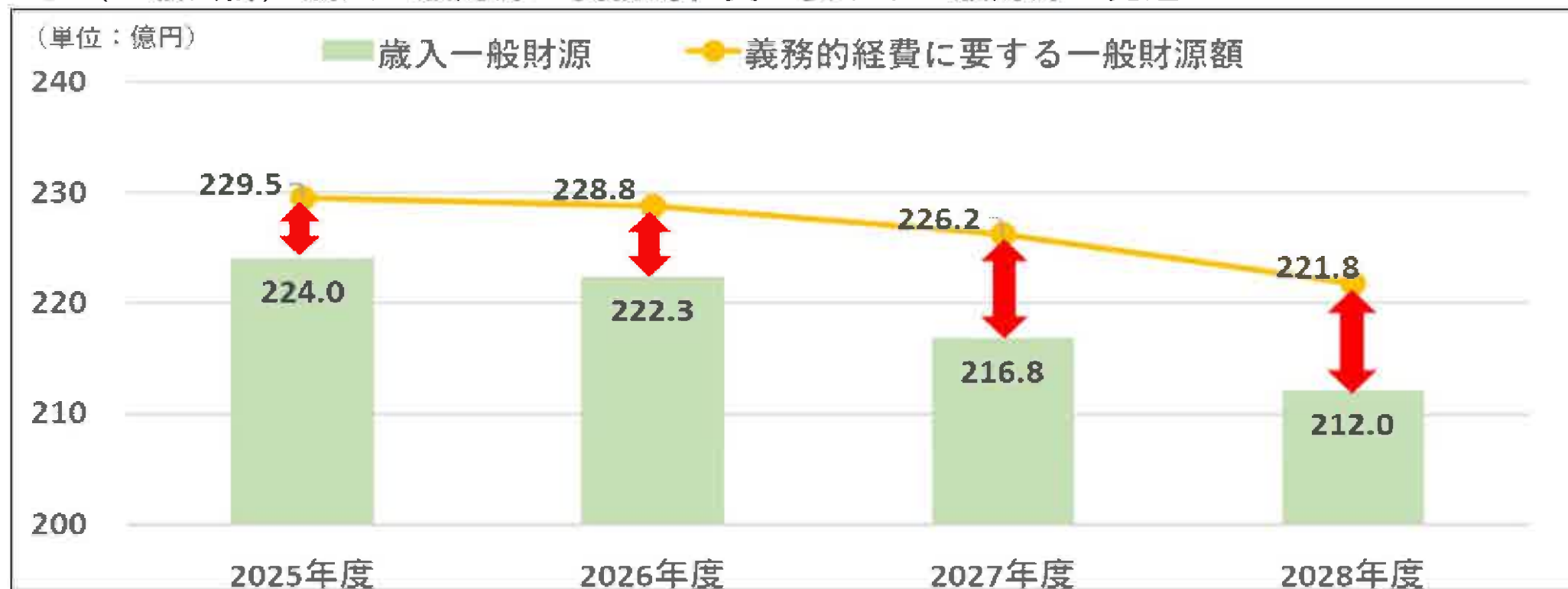


もっと増やせないか？

2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

一般会計からの財政支援について

○（一般会計）歳入一般財源と義務的経費に要する一般財源の見通し



項目	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	予算額	推計値		
義務的経費に要する一般財源不足額	5.5億円	6.5億円	9.4億円	9.8億円

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

一般会計からの財政支援について

○一般会計から病院事業への繰出金額【2025年度】

10億9,444万円



もっと増やせないか？



病院事業として、持続可能な運営体制を構築していく必要性

2（1）南砺市立医療機関をとりまく課題

課題④ ヘき地医療の維持が難しくなっていること

少数の医療従事者による運営の限界

- ・ 症例数が少ないことから、医師が臨床経験を十分に積めない
- ・ 医師が不在となった場合の代替措置
- ・ 施設管理や調剤管理業務など多種多様な業務に対応しなければならない
診療所看護師の高齢化、後継人員の不足

○ヘき地診療所の運営日数と外来者数の推移

	2014年度		2019年度		2024年度		現在の週当たり 運営日数
	運営日数	外来者数	運営日数	外来者数	運営日数	外来者数	
平診療所	244日	1,965人	139日	1,507人	137日	1,460人	3日／週
上平診療所	244日	3,489人	185日	2,802人	188日	2,739人	4日／週
利賀診療所	244日	3,407人	190日	2,122人	158日	1,551人	4日／週

2 (1) 南砺市立医療機関をとりまく課題

南砺市立医療機関をとりまく「待ったなし」の課題への対応

